

## 次世代経営研究会実施報告



## 「現場目線で考える日本の農業のこれから」後半

事業部会経営委員会  
次世代経営研究会運営委員会

## 1. はじめに

2023年10月24(火)に「次世代経営研究会第10回定例会」をTeamsによるリモートの形式で開催した。参加者は関係者を含めて32名であった。今回は(株)ACWパートナーズ 代表取締役の大國仁氏をお招きして、「現場目線で考える日本の農業のこれから」の演題でご講演いただいた。

なお、大國氏の基調講演は本誌前号に掲載した。ここでは後半のパネルディスカッションの内容を掲載する。

## 2. パネルディスカッション

司会：

鈴木智雄 コニカミノルタジャパン(株) DXソリューション事業部 ITS事業推進統括部 ITサービス管理部 担当部長

パネリスト：

吉野 節己 三宝化学工業(株) 取締役  
出口健三郎 道総研酪農試験場 草地研究部長  
角 有司 宇宙航空研究開発機構 安全・信頼性推進部ミッション保証技術グループ研究開発部門 第四研究ユニット(併任) 技術領域主幹

## 2.1 自己紹介

鈴木(以下司会)：まず各自の自己紹介から入りたいと思う。私は大学時代、大國氏と同じ大学の同じ自動車部に所属していた。私が入部した当時大國氏は既に社会人OBであったが、部室やイベント等によくお会いし、現在でもFacebookで繋がりがあ

先日、日本の農業に関する書籍を大國氏が出版された旨の投稿を見て、日本の食料自給率が低いことが日本の重要課題の一つとして念頭にあったため、このテーマが良いと考え講演をお願いした経緯がある。

吉野：三宝化学工業にて、最近まで工場長をしていた。会社の主事業は化学工場であったが、当時もやしの生産工場を担当した。当時、米農家が樽に水を掛けてもやしを生産していたのを見て、もっと効率的に出来るのではないかと考えたことがきっかけだった。しかし当時は生産条件が好ましくなく、事業としても赤字続きだった。パラメーターが膨大にあったので品質工学を取り入れた。収穫量の増大、歩留まりの改善、生育日数の短縮も実現し、事業として成功した。近年はミックス野菜なども手掛け、「化学」という企業名のイメージとは異なる領域で事業を展開している。

出口：道総研酪農試験場という公設の研究機関に所属している。高校までは千葉県在住だったが北海道で帯広畜産大学に行き、道内の試験場に就職し、現在は酪農の飼料の生産と品質の評価を受け持っている。酪農では乳牛に大きな負荷をかけて大量の牛乳を生産させるため牛の栄養管理が大事である。餌の半分は輸入穀類で、半分は自給の牧草やトウモロコシなどである。輸入の穀類には成分値がついているが自給の飼料は栄養成分が不明なので、それを分析するサービスを飼料会社や農業団体が行っている。これを個々の団体任せにすると成分表示にばらつきが出るので、分析方法を統一し、分析精度を高める活動をしてきた。

角：JAXAに所属しており、次世代経営研究会は今回が初参加である。以前はメーカーで船の設計など